



TITLE:

# 社會問題評論

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 社會問題評論. 經濟論叢 1919, 9(3): 462-469

ISSUE DATE:

1919-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127566>

RIGHT:

# 京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第九卷 第三號

大正八年九月一日發行

## 論說

農家者流の經濟思想……………

法學士  
文學士

小島 祐馬

住居税の利害と高級住居税の提案……………

法學博士

神戸 正雄

經濟的行爲と道德的行爲との關係……………

法學博士

田島 錦治

社會政策上より觀たる吾國の財政……………

法學博士

小川 郷太郎

## 時事問題

同盟罷業の頻發……………

法學博士

戸田 海市

朝鮮統治の根本問題……………

法學博士

山本 美越乃

銀行の手形引受制度……………

法學士

大森 研造

## 雜錄

米價の高低と一般物價の高低……………

法學博士

河田 嗣郎

社會問題評論(二)……………

法學博士

神戸 正雄

和田垣、内田兩博士の永眠を悼む……………

法學博士

神戸 正雄

京都帝國大學經濟學部規程●經濟學部大正九年度授業擔當

## 社會問題評論

神戸 正雄

(四) 社會思潮に於ける前進と後退 (五) 世界的思

潮と國粹的思潮(六)満足と不満足(七)學者と危險思想(八)稅制改革と社會問題)

#### (四)社會思潮に於ける前進と後退

今日我邦の青年の頭には社會問題につきては多く前進的傾向が行はれて居る。新しき理想郷を憧憬するの念が強い。社會主義に共鳴する所が多い。事物を唯物的に觀ることに偏して居る。彼等は義務の履行を忽にして、權利の主張には少しも遠慮しない。此が先づ多數の青年の現代的傾向といふて良し。獨り彼等のみではない。世の中の全體の風潮もが此方に向つて居る。此に於てか世の中に之を患ふる一部の人々があつて之を唯心的に向け直し、そして平和な協調を得た社會を作りたいと考へ、或は外國に於ける復古的主義(例之ギルドソシアリズムの如き)を入れやうとし、或は我邦に特有なる遠慮主義温情主義乃至主從思想などを鼓吹しやうとして居る。斯くて一部の人々の間には今の青年思想を是非此處に持來さなくてはならぬし、又多分其内に新思想に厭いて此處に戻り來るであらうとさ

へ考へて居る人もある。併し私の今日了解する所では斯くの如くに人心を轉廻することを望むことは遠い——未來は知らず、當分先づ不可能であると思ふ。何せかといへばむしろ唯物的に見たり、遠慮なく權利を主張するといふことの方が、本來、人の最も自然的なる性情の發露で此に反對するのには何といつても無理の處があるからである。唯だ併し進んで考へると、事物は唯心的にも觀ることを得るし、權利の裏には義務もあり、自己獨り良いのでは社會が甘く行かず、随ふては結局自分も立行けなくなるし、旁々人々が相當に其態度を靈化するの良きことは人の納得し得ることである。其れ故に餘り極端に行つた後に、漸次其に修訂を加ふる必要を認むることになるのは想像し得る。併し人心が全く所謂新思想を去つて、舊き道德、舊き考に立戻るなどといふことは先づ六ツ箇數に思ふ。勿論人の考、人の哲學は人により區々で、中には舊い考に戻る人があるにしても、大體からいふて、其を望むのは難い。復古的の考を持つ人が

極端に之を唱え、之を以て他の人々を壓倒しやうとすれば、世の中は却て紛争を生じ混亂を招くより外はない。矢張り眞理は中間に在るので、而思想が甘く融合調和を得るのが最良と思ふ。私は其場合土臺はむしろ新思想に置いて之を舊思想にて美化しなければならぬと思ふ。之を一の實例に就いていふと、労働者が益々其利益の爲めに其報酬其他に就き要求を進むるのは當然のことであるが、併し其極、資本家が正當に主張し得る其地位までも全然奪去るに至ては過ぎて居る。資本家の相當の地位は労働者も亦之を認めなければならぬ。労働者が生活の不安又は不足につき訴へ且つ要求するといふのは正當であるが、併し彼も退いて自ら之につき努むべきものを努めたりや否やを省みなければならぬ。今の社會に不満を感じて或要求を爲す人は、常に此丈けの覺悟をしなければならぬ。其と反對側に立つ人々も相手の相當の要求は理解し快く之を承認するだけの雅量がなければならぬ。相手方に義務を期待し、唯心的態度を希望

する者は、先づ自ら其義務を盡し、相當の唯心的態度を示さなければならぬ。今日日本の資本家が温情主義を唱えても其が一向に權威のないのは、畢竟彼等が之を唱ふる資格なき心掛を持つからである。今の唯物的風潮を患え之に反抗せんとする人自らが唯物的傾向に提はれて居ては駄目である。今日の有様では勿論、唯心的傾向を鼓吹するの必要を認めない譯には往かない。併し其は啻に所謂新思想を持つ人に對してのみではなくて、舊思想者に對しても然りといふことは洵に今日の時勢の大きな不思議である。

#### (五) 世界的思潮と國粹的思潮

近頃、我國に外來の諸多の思潮の入込みたるに對して、今にも我國が滅亡しはせぬかと心配し、我國固有の思想にて之を抑えやうといふ考がある。如何には殊勝であるが、併し其は無用であり無功であらうと思ふ。何せかといへば外來思潮がそんなに我國を滅亡せしむるやうな恐ろしいものではなくて、十分に我國體にも調和し

同化し得て、而かも現代の缺陷たる社會上の不公平を矯正するものであるのみならず、所謂國粹主義の持出す所の恩情主義、主從道義などが到底、現代の多數民には信仰されざることゝなりつゝあるからである。又之を主張する人々自らに於て之を主張するだけの資格なきことが明かになつて來て居るからである、所謂國粹主義の眞に行はれ得る範圍なしとは勿論いへない。併し其は次第に狭くなりつゝある。矢張り大體にては外來思想を適當に取入れる外はない。其爲めに國家の滅亡になることは斷じてなく、唯だ其が爲め國家の發展を阻碍せられはせぬかに就いては、全く之が取入方如何に依るのであり、之を注意することが最肝要であるといはなければならぬ。却つて外來思想を生仲、排斥して居ると、社會上の大混亂を生じて國家的發展を阻碍し國家の滅亡にさへもなり得る。支配者階級も時勢の變を理解して、胸襟を披いて無產者階級の要求を聴き、自らも相當に利し、他をも相當に利せしむるといふ根本の考を作らなければ

ならぬ。其を躊躇して居れば却つて自滅をも招くの外ない。

#### (六)満足と不満足

人の慾望に際限のないことは何人も認めなければならぬ。隨を得て蜀を望むといふことは人心の通有性である。今日の唯物的風潮の盛な時代には、人が各々限なき要求を主張して止まない。限なく其慾を充さんとして努力する。企業者は消費者に對し有らゆる手段を弄して物の値段を高めて自ら利益しやうとする。其勞働者に對して支拂ふ所の賃金は成るべく之を少くして、而かも彼等を出來るだけ長い時間働かせ、其から絞れるだけの膏血を絞つて平然として居る。然うかといつて近頃は段々勞働者が自覺して來たから仲々安い賃金には甘んじない。機會にあらば、捕えて之を高くしやうとする。そして幾ら勞働條件が高くなつても、是で彼等が満足といふことはない。茲に至つて企業者は勞働者が此先き何處まで主張して來るかと思配し出すことになつた。今度はむしろ資本家の方が

危うくなりつゝあるのが現状であるが、前には彼等が勞働者を虐め倒した其廻り合せとも見らるゝ。其處で今度は企業家も方向を轉じて消費者を苦しめかけた。物の値をせり上げて勞働者の報酬の大きくなつた埋合せを得、更らに其以上多々益々利益しやうとし出した。併し斯くなれば消費者も自覺して消費者組合を作つて之に反抗することになり、或は國家をして企業管理を擴張せしめなければ止まぬといふことにもなる。で今日吾人は限なき慾念に刺戟せられて、他人を困らしても自らさへ利益を多く得れば其れで良いといふ氣分になつて居る。斯くて此世の中には一部の者の満足を得る反面に、他部の者の不満がある。其間に利益の調和の得らるゝ、こともあるが、其の得られずして不満足を嘆ずる者の存することが甚だ多い。斯くて斯の如きものが果して好ましき社會かといふ疑が、不滿者に依つて起さるゝのは當然のことである。結局、今日の如き箇人本位の社會では其調和が六つかしいから、凡へての企業又は特に必要品供

給の企業を國家直接の管理に移し、又は之を國家所有に屬せしめて其監督の下に其經營を組合に委任するとか、或は事業を資本家と勞働者との共同管理に移して之を更らに國家の監督の下に置くといふことが考えらるゝに至つた。或は斯の如くするの外なき運命にあるかも知れない。少くとも一部の事業は既に段々之を行ふの氣運に向つて居るやうであるが、偕て併し此に一の問題は、今日の企業組織の下にも今少し各方面に満足を與ふることが出来ないかといふことである。其には何うしても各人の強き道徳心を要求するのであるが、若も各人が自ら多くの物を支配し其を直接享樂することゝならなくとも、其を他人をしても享樂するの機會を得せしむることに於て前者と同様な満足を感じることが出来るならば、其が達せられたる譯である。此心持は實際人々の修養に依つては出來得ることである。又假令斯の如く他人の満足することに満足を感じすることは六つかしいとしても、他人をして相當に満足を得せしめ、其の爲めには

自己の利欲を抑ゆるを辭せずといふこと、即ち其の爲めには不満足を忍ぶといふことは出來得る。此も實際多少行はれて居る。此等が如何なる程度まで教育によつて成果を擧ぐるやといふことは國に依り異なるであらうが、實際其成績が良好ならば現代の組織を維持しても良い。併し其が到底駄目となれば國家管理を擴張するの外ないが、唯併し此度も亦從來の如く人々が自己の都合のみ計つて往く態度であると、矢張好成績を擧ぐることは出來ない。孰れにしても經濟組織の運轉には大なる道德的訓練が入用である、で何としても將來國家は此訓練の爲めに非常なる努力を爲さなければならぬ。

#### (七) 學者と危險思想

依らしむべし、知らしむべからずとは一面の真理である。人民が無智であれば、治者に於ては洵に治め易いのであるが、人民に智識が進んで來ると、仲々治め惡くなる。色々治者の仕事を批評し、其手落を見附けては罵倒することになる。で人智が進んで來ると、治者の權威が自

ら落ちることになる。特に世の中に學者といふものが居つて、先頭に立つて色々な事を言ひ出しては世人を煽動する。治者の邪魔をすることが夥しい。特に危險思想を撒布する。治者から見ると洵に厄介者で、秦の始皇ならぬぞ之を生埋めにでもしたくなる。とさういふ見方がある如何にも其は一應尤もな觀察である。學者は此の様に治者からは嫌はるゝが、學者自らも一面からいふと随分、氣の毒なものである。何も知らなければ、世の中の事に對して不平も起らぬが、色々知つて見れば歴き足らぬ事ばかりが目に着いて憤慨で堪らぬ。然りとて自ら手を下して之を治める譯にも往かず、又多分やつて見た所で、さう甘くは往くまいし、常に唯だ不平と煩悶とに苦められて世を終らなければならぬ。其を考えると洵に不幸な境遇に在るものともいへる。現に私はさやうな怨言を聽かされたことがある。併し以上の普通に行はるゝ學者觀は皆な穩當でない。學者自身としては唯だ研究すれば良い、批評すれば足る。(尤も學者よ餘り批評



するなどいふ實際家もあるが、批評を學者に禁ずるのは酷である。其以上實際が良くやうがやるまいが、其につき心配するには及ばない自己の研究上の努力の到らぬものなきやに就てこそ常に不満を感じるとも、實際界が自分の思ふやうにやらぬからとて不平を感じたり煩悶したりするには及ばぬ。さやうな事に氣を使つて居ては、折角の本職が御留守になる。學者は多く讀み多く考え多く結果を發表しさへしたら、其れで十分で、其を折角やつて居ると、殆ど煩悶したり不平を考ふる暇などはない。學者は仲々甘く行はれ難い所の實際の施設などに責任を持たず、いひ度いことさへいふて居れば其で良いのであるから、是れ程、氣樂な、幸福な職業は他に之なしと思ふ。是が私の一學者としての學者觀である。それから近頃世の治者が學者を厄介者視するのは太だ間違つて居る。彼等はむしろ學者をして思ひ切つて研究せしめ、又腹藏なく其意見を吐かしむべきである。何にも一々學者の言を取上ぐるには及ばぬ。自分の見識を

以て之を取捨すれば良い。又學者の見解も盛に之を發表せしめて置けば、彼等はさうく所謂危険なことばかり吐くものでなく、治者の都合の良いことも言ふから心配はない。特に同種問題に關する學者が多くなれば、なるほど異見が多く出て來て互に牽制することにもなる。一見危険のやうなのが危険でなくなる。で之を抑制するよりはむしろ獎勵する方が實際、所謂安全の處に落付かしむる所以である。特に社會問題の研究の爲めには國家が大學に對して特別獎勵を爲す位のことになつて欲しい。我京都大學が經濟學部獨立の本年度より、社會問題及社會政策に競争講義を設けたことは當局者に於ても相當に注意を拂つて欲しい。一步を進め斯かる重要問題の爲めには、特別研究所の設置を企て、欲しい。其にてウント材料を多く整え、人を多く入れて研究さすことにしたい。近頃民間篤志の資本家にして之を設けた例はあるが、資本家の經營の下にては何となしに信賴の出來ない憾がある。政府の特別官廳として社會局を設けて

之に調査部を置くとの計畫もあるさうであるが此も政府の下に御都合主義に流れはせぬかを心配せざるを得ぬ。勿論両者ともに無用とはいはぬ。其れ／＼に特徴の發揮せらるゝことと思ふが、併し不羈獨立なる大學もが之が研究には特別重大なる長所ありと思ふ。で當局者に於ても大學及學者に對して今少しく穩當なる理解を持ちて、此希望の達せらるゝやうに盡力して頂きたい。

#### (八) 税制改革と社會問題

近時社會問題が喧しくなつて、人心の動搖が太しく、爲めに富者階級にも不安があり、貧者階級は又遠慮なく不平不満を訴えるやうになつた。此時に當りては租税に於ける從來の不公平につき貧民階級も一層強く意識して訴へ出した從來之を不問に附して來た所の政治家も、之を抛つて置く譯に行かなくなつて居る。彼等も從來、其不公平に氣は着いて居ても、制限選舉制の行はるゝ我邦では其を改めては自己の立場を失ふので、其を躊躇して居た。然るに今日の如

く社會人心に動搖が生ずると、有産者自ら進んで増税を辭せずといひ出さなければならなくなつた。現に關西の實業組合にて之を言ひ出したのは面白い。政府及政治家は此好機を捕えて折角、大改革を行ふべきである。政治家は人氣を讀み、機會を捉えることを要とする。今は即ち彼等の大に爲すべきの時である。